

北陸新幹線の取扱いについて

平成 24 年 2 月 27 日
西日本旅客鉄道株式会社

1. 基本的な考え方

整備新幹線の新たな整備にあたっては、国鉄が経営破綻した経緯に鑑み、「JR の負担は、受益を限度として支払う貸付料のみであること」、また「並行在来線が営業主体から経営分離されること」が基本スキームと定められており、平成 21 年 12 月の整備新幹線問題検討会議における「整備新幹線の整備に関する基本方針」では、未着工区間の着工にあたっての基本的な条件として「営業主体の収支採算性を確保すること」、及び「並行在来線の経営分離について沿線自治体の同意を得ること」が示されています。

弊社としては、未着工区間の整備においても、金沢までの既着工区間と同様に、この基本スキームが堅持されるものと考えております。

2. 新規着工区間

北陸圏～関西圏の鉄道旅客流動は、現時点で北陸圏～首都圏の鉄道旅客流動を大きく上回っているうえ、金沢～大阪間の新幹線整備により大幅な時間短縮効果が見込まれることから、北陸新幹線の大阪開業の効果は大きいと考えており、本来であれば、早期の大阪までの全線開業が望ましいところです。

しかしながら、諸情勢を鑑みれば、最終的な大阪開業を迎えるまでには、これまで以上に相当の年月を要すると推察されます。従いまして、弊社としては、当面、関西・中京圏と北陸圏との結節点であり、また一定の整備効果が見込まれる敦賀までを整備することが必要と考えておりましたので、今回、北陸新幹線の未着工区間である「白山総合車両基地・敦賀間」の取扱いが決定されたことにつきましては、北陸新幹線の全線開業に向けての着実な前進と受けとめており、敦賀までの整備に強く期待するものです。

敦賀開業の場面においては、平成 23 年 12 月に示された「整備新幹線の取扱いについて（政府・与党確認事項）」の中に、「敦賀での乗換による旅客利便性の低下を回避することが求められるが、その対応について JR 西日本や関係地方自治体の意向を確認する」と示されました。弊社と致しましても、新幹線の整備効果を最大限に発揮するためには、敦賀駅での旅客利便性の確保が重要な課題であると認識しており、敦賀駅での旅客利便性を確保するための方策としては、敦賀まで運行する在来線と敦賀以東を運行する新幹線との同一ホーム乗換えを考えておりました。

このような中、「敦賀駅での乗換による利便性低下を回避するための対応を最大限講じたと仮定した場合」として、北陸新幹線への F G T 導入について国土交通省よりご提案がございました。弊社と致しましては、仮に F G T が導入さ

れると、敦賀開業時の課題である敦賀駅での在来線と新幹線の乗換え問題が回避される点で、より望ましい案と考えており、技術的課題はあるものの、本案について検討してまいりたいと存じます。

F G Tの導入にあたっては、耐久試験を踏まえた安全・安定走行の確認が前提になりますが、今後引続き、国をはじめとした関係機関において、F G Tの技術的課題の克服に向けた取組みが進められるものと考えており、弊社と致しましても、積雪の多い北陸新幹線の特情を踏まえた上で、新幹線と同等の安全性・経済性を有する実用化車両の開発に向けた取組みを進めていく必要があると考えております。あわせて、F G T導入に伴い、指令設備や軌間変換設備、車両基地等の整備はもとより、雪害対策や地震に対する脱線防止対策に加え、在来線区間に対する軌道強化等も必要と考えております。

更に、敦賀までの整備による鉄道ネットワーク効果を最大限に発揮させるためにも、F G Tが運行する在来線区間に対して、安全・安定輸送対策の強化が必要と考えております。

現在、関西圏と敦賀駅を結ぶ在来線においては、多くの踏切が設置されており、これらの踏切でひとたび輸送障害が発生するとF G Tの遅れに繋がり、在来線におけるダイヤ乱れの影響が新幹線へ波及することが懸念されます。また湖西線については、強風に伴う列車の運休や徐行が発生しておりますが、これらの輸送障害もF G Tの遅れに繋がることから、踏切の廃止も含めた保安度向上をはじめ、防風柵の設置等の保安防災対策が必要と考えております。

また今回の決定の中で、金沢・敦賀間の収支採算性が「80～102億円」と示されておりますが、本試算は国土交通省の責任において算定されたものであり、弊社と調整したものの取扱いは、ご容赦願います。

弊社と致しましては、現段階では敦賀開業時の運行形態、到達時分、料金体系や車両形式等が定まっておらず、また将来の社会経済状況や金沢開業以降の新幹線や在来線のご利用及び対抗輸送機関の動向等が不透明なことから、開業後に支払う貸付料の額は、本試算に関わらず弊社の受益を限度として、開業前に協議した上で決定するものであると認識しております。

3. 最後に

弊社と致しましては、新たな整備区間がすみやかに認可・着工されますよう、必要な調整を進めてまいりたいと考えております。

また、北陸新幹線の金沢開業に向けた準備はもとより、開業時に弊社から経営分離される並行在来線が円滑にスタートされますよう、引き続き、必要な取組みを進めてまいる所存です。

今後とも引続き、ご理解とご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。